



一般社団法人

富山県作業療法士会 ニュース

平成28年度 No.4

第 123 号 平成29年 1 月27日

発行 一般社団法人
富山県作業療法士会
会長 田 村 良 子
印刷 (株) チ ュ ー エ ヅ

富山県作業療法士会ホームページ <http://toyama-ot.sakura.ne.jp>

富山県作業療法士会会員数：589人

田村良子会長が厚生労働大臣表彰を受賞されました



JAPAN
50th
日本作業療法士協会
設立50周年

「これからも あなたと共に 作業療法」

2016年 9 月25日、日本作業療法士協会設立50周年記念式典において厚生労働大臣表彰を受賞されました。謹んでご報告させていただくとともに心よりお祝い申し上げます。

厚生労働大臣表彰を受賞して

会長 田村 良子

2016年 9 月25日に開催された日本作業療法士協会設立50周年記念式典において、富山県作業療法士会の推薦を受け「作業療法業務功労者」として厚生労働大臣表彰を受賞しました。この推薦要件

は、1) 保健医療行政に対する協力、作業療法の指導育成等に特に顕著な功績のあった者 2) 年齢が50歳以上であること 3) 都道府県作業療法士会の理事としての従事年数が20年以上であること

です。私は1973年に作業療法士免許を取得し、神奈川県や大阪で勤務した後、1979年から富山県で勤務しました。県士会役員歴を見ると、1982年の士会設立当初の2年間は監事、1984年から2年間は理事、そこから飛んで1998年から2004年3月まで高岡会長の下、副会長、同年4月から会長になり、ちょうど3)の要件を満たしたところです。「飛んで」のところは、3人の子育てや家事と仕事に専念していた時期ですね。その代り仕事の方は脳性麻痺児の作業療法、学習障害児等に対する感覚統合療法の臨床実践やその根拠となる発達研究、他職種との協働に務めるなど忙しくも充実した毎日を過ごせました。作業療法士を増やせば、もっと子ども達や親に最良のサービスが提供できるとの思いで、1996年に開校した富山医療福祉専門学校に勤務し、高岡会長から学校に勤めたのだから教育部の仕事をしたら良いと言われ、士会の仕事を再開しました。ちょうど生涯教育制度が始まる時期でもあり、学生教育においても、卒業後を見据えて行えたように思います。また、学校に勤務してからは、ちょうどその頃法的にスタートした精神障害者の社会復帰施設へ出向したり、特

別支援学校の研修会の講師や保健所の発達相談・支援に関わったりし、上記の要件1)について活動することができました。このような他分野、他職種の中で働くことで、「作業療法とは何か、専門性はどこにあるのか」が見えてくることを感じましたし、協働の楽しさを味わうことができました。それを学生に伝えることで、作業療法の醍醐味、やりがいを感じてもらえたかと思います。

要件2)については65歳となり介護保険手帳ももらい高齢者の仲間入りをしました。身体的には正直に老化が進み、認知症なども他人事ではありませんでした。今回の厚生労働大臣表彰は、「長い間よくやってきたね」という自分へのご褒美でもあり、それを支えてくれた家族や同僚、士会員の皆様のお蔭だと感謝しています。協会設立50周年、半世紀という節目の表彰は大変光栄で、また自分にとってはこれで一区切りつけることができるように思います。今後は皆様が生活行為向上マネジメントの手法をもって医療・保健・福祉・教育・労働などの様々な分野で社会貢献できるように後方支援に回り、次の60周年にはまた富山県士会から受賞者ができるようにしていきたいと思っています。

日本作業療法士協会設立50周年記念式典に出席して

ケアポート庄川 松岡 暢

平成28年9月25日、日本作業療法士協会設立50周年記念式典および祝賀会が東京新宿にあるハイアットリージェンシー東京にて行われ、富山県士会役員として丸本氏とともに出席させていただきました。

東京フィルハーモニー交響楽団員による三重奏の後、静寂に包まれた中、元NHKアナウンサーで富山放送局にもおられた村上信夫氏の軽快な司会で式典は行われました。中村春基会長の挨拶にはじまり、厚生労働大臣、文部科学大臣はじめ来賓の祝辞の後、厚生労働大臣表彰式が執り行われました。26名の作業療法業務功労者のお一人として、我が富山県士会からは田村良子会長が厚生労働大臣表彰を受賞されました。長年にわたり富山県の作業療法の発展に貢献されてこられましたご功績に対し深く敬意を表し、お祝いを申し上げます。

式典に続き行われた記念祝賀会は和やかな雰囲気

の中で行われ、他県の士会役員の方々との交流もできましたし、個人的には恩師との再会も果たせ思い出話や近況報告ができ貴重な時間となりました。終盤には日本作業療法士協会五十年史DVDが上映され懐かしくご覧になっておられる諸先輩方の姿が印象的でした。

さて、今回式典で感じたことは、私たちが今作業療法士としてあるのは、50年前に協会を設立された先輩方のおかげであり、ともに歩んでくださった作業療法を必要としてくれる利用者の皆様、多くの関係者の方々のご尽力があってこそなのだとあらためて実感させていただきました。

会員の所属宛には日本作業療法士協会五十年誌が届いていることと思います。先人達が築き上げてこられた歴史を振り返り、今のありようを見つめ直し、これからの国民の健康と福祉の向上のために決意を新たにしようではありませんか。

田村良子会長の厚生労働大臣表彰受賞を祝して

谷野呉山病院 丸本 薫

この度、当県士会長の田村良子氏が、保健医療行政に対する協力、作業療法の育成指導などに特に顕著な功績があったものとして、厚生労働大臣表彰を受賞されました。

謹んでご報告させていただくとともに心からお祝い申し上げます。

2016年9月25日、日本作業療法士協会の設立50周年という節目にあたり設立50周年式典において受賞表彰式が挙行され、26名の作業療法士が受賞いたしました。会長は日本作業療法士協会からの推薦を受け、功績が認められ受賞の運びとなった次第です。

この賞は永きにわたり作業療法に従事されたというだけでなく、作業療法の発展ならびに医療、福祉、教育などに尽力なされた田村会長の功績に対して授けられた賞であり、当会長がこのような栄ある賞を授与された事を誇らしく思います。

私はその賞を授与される会長の姿を、式典にて見守ってまいりました。いつも冷静でポーカフェイスの会長から満面の笑みがこぼれるのを初めてお見受けいたしました。会長が他の受賞者と写真を取りながら、久しぶりに会う友人と語らい会い、共に喜び合う姿をみながら、その背後にある

現在までの苦労を思わずにはおられず、胸が熱くなるのを感じました。

祝賀会では作業療法士会発足時の委員が紹介され、当時、礎を作られた際に苦勞なされた話も



あり、今日にまで発展し現在、私たちがいただいている環境は先人たちの努力によるものとつくづく思いおこされました。

会長におかれましてはこれからも変わらず、県士会活動を支えていただけますよう今後もよろしくお願い申し上げます。

最期に田村会長に続いて、富山県から賞をいただける方が輩出されるような会に、役員、会員一丸となって発展させていければと願っております。



「第16回東海北陸作業療法学会に参加して」

公立南砺中央病院 南部 雅允

平成28年11月26、27日の2日間、金沢市の石川県地場産業振興センターで行われた第16回東海北陸作業療法学会に参加してきました。「作業療法の想起と再考～人の暮らし、生きることを創造し実践する作業療法～」をテーマに学会長の寺田佳世先生のもと石川県士会のご支援により充実した学会参加ができました。

今回は、「日本最大級の福祉機器」と題し61社の企業が出展を行い、電動車椅子や車いす用クッション、自助食器などが展示されていました。臨床の現場ではこれほど多くの福祉機器に直接触れ、体験できる機会はなく、とても貴重な経験となりました。また、自分の担当している患者様と照らし合わせながら「これを使えばもっと良くなるかもしれない、QOLの向上に繋がるかも」と考えることができとても有意義な時間となりました。

会場では、石川県リハビリテーション風船バレーボール第30回を記念し、風船バレーボール大会が開催されていました。東海北陸各県のOTの方々が参加し、もちろん富山県を応援していました。残念ながら富山県OTチームは初戦敗退となりましたが、活気あるプレーが何度もみられ、とても楽しかったです。

シンポジウムは竹田総合病院リハビリテーション部の長谷川先生の今後の病院の作業療法と作業療法士の在り方についてが印象に残りました。平

成28年度診療報酬改定では、「目標設定支援・管理料」が設けられリハビリテーションに「活動」と「参加」に焦点をあてた支援が強く求められるようになりました。その中でOTとしてMTDLPを活用することで、この「活動と参加」という観点において、とても重要であるのではと感じました。

今回、私は口述発表も兼ねて参加させて頂きました。「病前の生活様式を取り入れ排泄動作を獲得した一症例～下衣の工夫に着目して～」と題し脳梗塞を発症した高齢者に対し、病前から着用していたスカートを病棟でも使用しながら排泄動作の獲得を目指した経過と結果について報告しました。排泄動作に対し、環境調整を行い“病前の生活様式”を取り入れ病棟と連携を図りながら関わることの重要性を実感することができました。

このような大きな学会で発表することは初めてであり、1週間前から緊張でなかなか眠れない日々が続いておりましたが、無事に発表することができ良かったです。

最後になりますが、今回の演題発表に際し協力していただいたリハビリ職員の方々、何より症例発表を快諾してくれた患者様に深くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

今回の経験を生かしながら、日々のリハビリ業務に励んでいきたいと思っています。



東海北陸リーダー養成研修会in富山2016

南砺市民病院 地域リハビリテーション科

裏田 将志

「顧客満足度95%のシャンプー」や「国家試験合格率98.8%」。これまでであれば、きっと良いに違いないと私は思っていました。リーダー養成研修会を受け、物事の捉え方や考え方について考えるよい機会となりました。

12月3日から4日に開催されたリーダー養成研修会は、今回で6回目となり、富山県では初の開催でした。富山、石川、福井、岐阜、愛知、三重、静岡から34名が参加し、富山大学経済学教授 舟橋伸一先生による講演や、グループディスカッションが行われました。

舟橋先生の講演では、リーダーに必要な資質として、2つ挙げられていました。1つ目は、「相手を納得させ、協力を得る力」です。リーダーは、チームの様々な意見を集約し、理解と協力を求めなければなりません。このツールとして、裏付けされた数字を提示することで、説得力を持たせることが出来ると言われていました。しかし、逆に相手から数字を提示された場合、誤った方向へ誘導されてしまう危険性も述べておられました。冒頭の満足度の高いシャンプーや高い国家試験の合格率についても、数字だけを見るのではなく、その調査方法や背景を見ることも、リーダーには必要な視点ではないかと思いました。

2つ目は、「現状を把握し、決断できること」です。私自身、日頃から判断を求められる時に、悩むことが多々あります。講演の中では、適切な判断をするためには、「周囲との合意目標と判断基準」を持つことが必要と言われていました。今作業療法士が取り組んでいるMTDLPでは、患者や家族との合意目標や、遂行度、満足度などの判断基準が含まれています。MTDLPが当たり前のように臨床に取り入れられると、現状把握と決断は、作業療法士が今後、得意とするのではないかと思います。

リーダー養成研修会は、講師による講演の他、県士会の発展について考えるグループワークがあり、課題の分析と解決策を検討しました。他士会

が提示されていた課題は、富山県士会にとっても、非常に参考になり、活動の転機となるきっかけを頂いた気がしました。

勤勉な富山県士会は、懇親会でも、コミュニケーションの研修を行いました。他者紹介ならぬ、他士会紹介などが企画され、翌日の研修会に向け、懇親が深まるとともに、他士会とも親密な関係を作ることができました。

余談ですが、社会人として必要な名刺交換とその活用、懇親会場の段取りなど、個人的にはいろんな意味で大変に実りある研修会となりました。

これから益々、作業療法士が地域包括ケアシステムの中で、何ができるのか、どこまでできるのかが試され、期待されていくものと思います。それと並行し、職能団体としての県士会の在り方と私自身がどうリーダーシップを発揮しながら貢献できるのか、一地域住民として、地域に何が還元できるのかを、今一度、考えるよい機会となりました。

最後に、富山県士会の一員として参加させて頂いたこと、また企画、運営をして頂いた市森運営委員長をはじめ委員の皆様、田村会長、記事を添削して頂いた齋藤理事に心から感謝申し上げますとともに、私から会員の皆様への宿題です。

「地球滅亡の日が迫ってきました。別の星に移住できるのは、あなたを含めて5名だけです。あなたはリーダーとして、連れて行く4名を選ぶことができます。さて、誰を選びますか。また誰を選びませんか。その理由（＝基準）を明確にしてください。

- ①医師、男性、50歳 ②弁護士、女性、30歳、
- ③サッカー選手、男性、40歳
- ④歌手、女性、21歳 ⑤科学者、男性、59歳、
- ⑥大学生、男性、21歳 ⑦軍人、男性、29歳

明確な答えはありません。リーダーに求められる視点からお考えください。（※これは、グループディスカッションでの課題の一部です）

第16回 富山県作業療法学会開催!!

県学会は今年度で第16回目を迎えました。今回の学会は『LIFE×作業療法=∞ ～「思い」「願い」をカタチに変える』をテーマに開催します。今回の学会での企画をいくつか紹介します。

まずは、日本作業療法士協会設立50周年記念事業として市民公開講座を開催します。最近テレビや新聞で高齢者の運転についての話題を耳にすることが多いと思われます。高齢者や認知症、脳卒中などの方の自動車運転について考える機会として、千葉県立保健医療大学・准教授の藤田佳男氏に「自動車運転とリハビリテーション」～地域での安全な交通社会の実現に向けて～と題して講演をお願いしております。現在の自動車運転を取り巻く状況と自動車運転に対する具体的な支援方法を考える機会になって欲しいと思います。また、これに関連して自動車に関連する補助装置の展示、運転シュミレーション体験も予定しています。

次に、富山県言語聴覚士会の協力のもと技術講座を開催します。臨床で活用できる講座を予定していますのでその技術をぜひ習得して頂けたらと思います。

最後に、地域にて起業し、リハビリを展開する4人のスペシャリストによるセミナーを行います。地域リハや起業に興味のある方等は、4人の思いを聞く良い機会になりますのでぜひご参加を。

また、休憩室や展示スペースでもいくつかの企画を予定しています。

生活に関わる作業療法士として、分野や経験年数を問わず、様々な知識や具体的なアイデアが学会を通して養うことが出来ると思います。そして、今学会が、「思い」「願い」をカタチに変える手助けになりますように。

平成29年3月18日 富山国際会議場にてお会いしましょう 学会長 小倉佐織

滑川ほたるいかマラソンボランティア活動

西能病院 高野 芽依

平成28年10月9日滑川市が主催する「滑川ほたるいかマラソン」が開催されました。今年も富山県作業療法士会では、「作業療法を広めよう」「地域の人に知ってもらおう」という啓蒙活動として給水ボランティアに参加してきました。今年は私を含め15人参加がしました。

当日は早朝より小雨が降っており、気温も低く肌寒さを感じさせる気候でしたが、悪天候にも関わらず総勢3800人のランナーが参加されたようです。給水ボランティアの内容は、スポーツドリンクや水を含ませたスポンジを提供することでした。私たちはハーフマラソンコースを担当しました。一度に大勢のランナーが押し寄せる場面では、スポーツドリンクが不足することや、ランナーの足を止めることなく円滑にスポーツドリンクを渡すことができるようにスタッフ間でアイデアを出しながら対応できるように努めていました。

タイミングが合わず、ランナーに手渡す際こぼれてしまう場合でも、ランナーの方から「ありがとう」や「ご苦労様です」など声をかけていただくことで更に応援に熱が入り、「次こそはスムーズに渡そう」など一つ一つ心がけながら取り組むことができました。

大会は途中雨脚が強くなる場面もみられましたが、時間が経つにつれ晴れ間も広がり、ランナーの皆さんにとっても過ごしやすい気温になり、アクシデントによるケガもなく、無事に終えることができました。

最初は大変そうなイメージで会場にいったのですが、実際に行なってみるとランナーさんの笑顔によりとても楽しい気分になりました。また来年以降も機会があれば参加していきたいです。



HANDS療法を受講して

高岡ふしき病院 リハビリテーション部 松本 皓嗣

平成28年10月23日に富山県民会館にて、藤原俊之先生、阿部薫先生による「HANDS療法」をテーマとした講義を受講させて頂きました。

藤原先生の講義ではミューロソリューションを用いたHANDS療法の適応の条件や、随意性向上のメカニズムの話を分かりやすく説明して下さり、理解しながら聞くことが出来ました。特に重要だと感じた内容は、日常の中で患側手なるべく多く動かすことが目的のため筋収縮を感知して電気刺激を加え動きを補助するという話です。患側手の随意運動を行うことが運動野に働く比率が高く、随意性の向上に繋がるため、1日8時間装着を3週間続けることで日常の中で患側手の随意運動を促していくという内容でした。外来の患者さんに対しては、機器にSDカードで筋電図のデータを取っているため自宅でも患側手を使っているかどうかの確認もできるとのことでした。日常での患側手の使用を促し、機器を取り外した後でも、補助手として日常生活に参加することを習慣づける

ことが出来ると感じました。

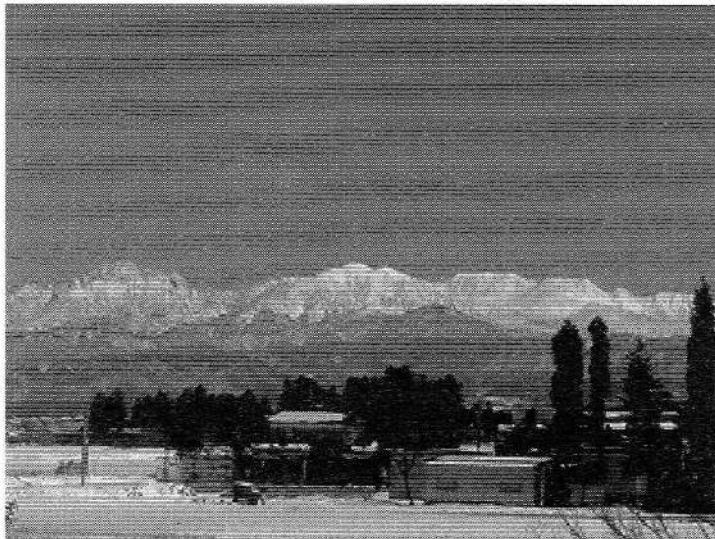
阿部先生の講義では、OTによる評価や実際行っている訓練の話聞くことが出来ました。初めに、機器の説明をしてからストレッチやワイピングなどで緊張をおとす指導、脱力の練習を行い、患側手の機能に見合った両手・ADL動作の課題を選定し、自宅で続けられる課題を提示していくといった流れでした。患側手の筋収縮があると機器のランプ部分が光るため、最初はそれが光るように頑張ってもらうのでフィードバックしやすく意欲も湧きやすいのではないかと感じました。

また、実技の時間もあり、講師の先生方から機器の設定の仕方や付け方の工夫などを教えて頂きました。特に手関節の固定に関しては、テノデシスアクションで指の随意運動を上手く促せないことになるため、しっかり固定しなければならないことを学び、臨床の場で気を付けていきたいと感じました。

次年度から、県士会ホームページ上又はスマホで 研修会申し込みフォームQRコードを読みこむことで、 直接、研修会申し込みが行えるようになります

次年度より、県士会員及び研修会開催者の利便性向上を目的に、県士会が主催する研修会等について、上記のように現在準備を進めております。具体的な方法としては、①パソコン・スマホ等インターネットにて県士会ホームページ研修会案内からフォームに入り申し込みを行う方法と②県士会ニュース等の研修会お知らせに掲載してあるQRコードをスマホ等で読み取ってフォームに入り申し込みを行う方法の2通りを予定しています。今後、出来るだけ皆さんに周知していただき、積極的に活用していただければと思いますので、運用の際は、ご協力を宜しくお願いします。

アメニティ月岡は、富山市南部旧大山町に隣接しており、平成5年9月に開設した、今年で24年目を迎える施設です。施設定員は入所96床（ショートステイ含む）、通所40名で、スタッフOT5名、PT1名、助手1名の計7名でにぎやかにやっています。



施設周辺は、のどかな田園地帯であり、リハ室からみえる立山連邦はわが施設の自慢となっております。屋外には足湯設備もあり、利用者さんの楽しみとなっております。また昨年度拡張した畑も施設の自慢の1つです。利用者様、職員だけでなく、中央農業高校生もお手伝いに来てくれ、みんなで一緒にい

ろんな野菜作りを楽しんでいます。車椅子利用者で畑に行きにくい方には、ベランダ菜園も行



っています。収穫したときの利用者さんの笑顔は最高です。認知症で不穏状態でも畑に行くと落ち着かれる方が多いです。

当施設は、1年を通してさまざまな行事を行っています。特に「納涼祭」は利用者様、ご家族様、職員ともに楽しみにしている行事の1つです。職員採用条件の中に「何か人を楽しませる特技がある」というのがあるかのように職員は芸達者な方が多いです。メリハリのある活気のある生活を送っていただくためにいろんな工夫をしています。

リハビリでは、「利用者様のさらなるよりよい生活」を目指して日々奮闘しています。

まずは、本人様のやりたいことを一番に考え、その目標に向かって、何ができるかを検討しています。

「ひとは作業することで、元気になれる」この言葉をモットーにこれからも試行錯誤していきたいと思います。

施設からの立山連邦の見学、または芸達者な方はいつでもお受けいたしますので、お気軽にお電話くださいね。

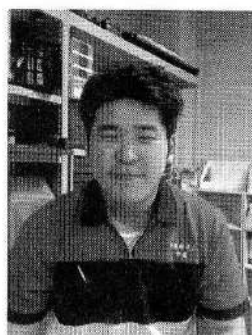


会員異動等

種類	氏名	旧所属	新(現)所属	備考
異動	山崎由起子	グリーンヒルズ若草病院	ケアホームなかそね	
異動	出村 晶子	富山協立病院	自宅	
異動	前田佐矢香	富山協立病院	自宅	
改姓	水元あけみ		にしの老人保健施設	旧姓：菊池
改姓	前田 加奈		厚生連 高岡病院	旧姓：島次
改姓	野田 愛		介護老人保健施設 みしま野苑一穂	旧姓：砂土居
異動	中村 優美	南砺市民病院	南砺市訪問看護ステーション	

新入会員の横顔

1. 名前 2. 施設名 3. 出身校or旧所属施設 4. 趣味・特技 5. 好きな芸能人 6. マイブーム
7. OTとして働いてみての感想 8. 今年チャレンジしたいと思っている事



1. 中畠宜大
2. 社団啓愛会 介護老人保健施設ゆうゆうハウス
3. 国際医療福祉専門学校七尾校
4. 映画鑑賞・ゲーム・ジブリ鑑賞
5. miwa
6. ジブリグッズ集め
7. 実習の時よりは、楽しめながら利用者様と関わっている。
8. 何より今年一年間の勉強会などへ参加する。



1. 田尻 優紀
2. 老人保健施設エルダーヴィラ氷見
3. 国際医療福祉専門学校七尾校
4. 買い物
5. 石原さとみ
6. 刺繍
7. 分からないことばかりですが、日々勉強して、利用者様に寄り添えるように頑張っていきたいです。
8. 旅行

平成28年度 第5回理事会

場 所：谷野呉山病院

日 時：平成28年9月12日(月) 19:00～

参加者：田村・松岡・島津・作田・丸本・田邊
森・桐山・古澤・小倉・松本・吉波
高林・橋爪・谷口・齋藤

〈報告事項〉

1. 会員への「職業倫理遵守のお願い」の文書発送
2. 47都道府県委員会 地域作業療法支援WG アンケート調査ー9月13日締切 橋爪担当理事回答
3. 第16回東海北陸作業療法学会ー開会式、(一社)日本作業療法士協会50周年記念事業 石川県リハビリテーション風船バレーボール大会30周年記念事業 レセプション 会長出席
4. 東海北陸作業療法学会座長依頼ー高次脳は桐山理事より、作業はアクティビティー部会より、精神障害は精神障害部会より選出していただく(9月15日締切)ー26日13:30～15:50 協会制度対策部障害保健福祉対策委員会「特別支援教育での実践に関する情報交換会」開催ー発達障害部会から富山県の活動報告。
5. 9月25日 協会50周年記念式典・祝賀会ー田村

会長厚生労働大臣表彰受賞で招待となるため、士会からの参加者は、松岡、丸本氏に変更。

6. 研修会自動受付システム進捗状況ー県士会ホームページ担当塚田氏マニュアル作成。9月中に各部会へ担当理事より、QRコードシステムについて周知し、マニュアル配布。
7. ほたるいかマラソンボランティア募集
8. 県学会進捗状況ー演題募集予定。発表演題は、インターネットよりエントリー可能。後援、協賛、広告など募る。
9. 各委員会、部会の報告ーリーダー研修会：富山県士会より5名参加してもらう。(松本理事他、候補者選定)アクティビティー部会：研修会に18名の参加。精神障害部会：研修会に25名の参加。老人部会、身体障害部会の研修会予定。

〈検討事項〉

1. 日本作業療法士協会50周年記念行事ー『東海北陸最強リハビリテーション風船バレーボール大会』参加者 石川県士会より依頼あり。学会参加予定者に出場募る。
2. 役員名刺 担当の記載ー作業療法士の啓発・普及も兼ね、担当名などをわかりやすく記載する。
3. その他ー福利厚生より：懇親会11月12日 予定

平成28年度 第6回理事会

場 所：谷野呉山病院

日 時：平成28年10月17日(月) 19:00～

参加者：田村・松岡・丸本・島津・古澤・松本
田邊・吉波・作田・高林・齋藤・橋爪
桐山

〈報告事項〉

1. 9月25日 協会50周年記念式典・祝賀会田村会長
厚生労働大臣表彰受賞－松岡副会長、丸本常務
理事出席。50周年記念誌20冊関係機関へ配布。
2. 地域ケア会議に関わる研修会－11月3日 9:30
～16:45 サンシップとやま 理学療法士会主催、
作業療法士会、言語聴覚士会共催で案内発送
3. 10月9日ほたるいかマラソン給水ボランティア
－12名参加
4. 28年度 富山県福祉カレッジ特別講座 専門多職
種連携とソーシャルワーク実践研修－11月17日
13:30～18日12:30 高志会館 吉波、菱田、大平
氏参加
5. 28年度 富山県DPAT研修(第1回)－10月26日
19:00～21:00 県民会館 高林理事、精神障害部
会から参加予定
6. 富山県高齢福祉課より「平成28年度がんばる介
護事業所表彰－要介護度維持改善部門」の検討
会専門委員の依頼－吉波理事を推薦
7. 12月3、4日 リーダー研修会参加者－松本理
事、大平氏(あさひ総合病院)、中山氏(魚津
緑ヶ丘病院)、大谷内氏(金沢医科大学氷見市
民病院)、裏田氏(南砺市民病院)
8. 新潟県士会より、作業療法士による学校訪問に
ついて照会依頼 一渡邊氏(発達障害部会)に記
載依頼
9. OT協会平成28年度災害支援ボランティア研修
会－11月13日10:00～16:00 協会会議室－高林
理事参加
10. 県学会進捗状況
・後援、協賛、広告依頼文書発送済み。公開講座
のお知らせは車販売店や教習所、警察や地域包
括センターにも発送予定。
・技術講座のひとつは言語聴覚士会に依頼。「完
全側臥位法による食事摂取」について。
11. 各委員会、部会の報告
・平成28年度 生涯教育制度推進担当者会議報告
・47都道府県委員会報告
・認知症プロジェクト研修会：齋藤理事参加。
・身体障害部会：10月第5週に研修会を開催予定。
現在35名の申込みあり。
・広報部会：県士会ニュースの表紙文章、発行回
数、カラー印刷について検討。表紙文章は理事
が順番で担当する。カラー印刷にした場合、予
算的な面からも年3回の発行が妥当。
・福利厚生部会：県士会懇親会11月12日(土)開催予
定。お知らせから開催までの期間が短いため、
次回より連絡は早めに行うこととする。
・老人部会研修報告

〈検討事項〉

1. 富山市長寿福祉課よりリハビリテーション専門
職協議会への問い合わせ 平成29年度事業「認
知症介護予防講座」－富山市内32ヶ所の地域包
括支援センターで、ケアを行う場合のコツやポ
イントについて30分の講義を依頼したい

- ・作業療法士が講義を行えるテーマを提示する。
 - ・誰が行っても同様の講義が行えるよう、講義の
原案を作成し共有する。(齋藤理事が担当)
2. 県士会役員と所属施設の関係
・県士会の役員を依頼する場合は、必要に応じて
公文書を発行する。
 3. その他
・調査部：県士会員対象の介護保険関連の加算算
定状況についてのアンケート内容の検討。
・MTDLP推進委員会：12/3の事例検討会の講
師を谷川氏に依頼。予算内容を一部変更する。
各部会や地区での事例検討会をもっと活発に進
めてゆきたい。
・東海北陸OT学会での風船バレー大会に8名を
派遣予定。一人当たり1,000円を補助し県士会
のTシャツを作成予定。

平成28年度 第7回理事会

場 所：谷野呉山病院

日 時：平成28年11月14日(月) 19:00～

参加者：田村・丸本・吉波・松岡・浅生・作田
谷口・斎藤・島津・古澤・桐山・橋爪
小倉・松本・森・田邊

〈報告事項〉

1. 地域ケア会議に関わる研修会－11月3日 9:30～
16:45 サンシップとやまにて開催
2. 28年度富山県DPAT研修(第1回)－10月26日
19:00～21:00県民会館にて開催。OT6名参加。
3. 11月7、8日健康と長寿の祭典－田村会長 富
山県知事厚生部門功労表彰 受賞
4. 11月12日県士会懇親会－17名参加
5. 11月13日生涯教育基礎研修－身体障害領域 参
加者25名
6. 県学会進捗状況－演題募集中。演題の数を見て
2次募集を行う予定。市民公開講座のチラシを
2500枚用意し、会員施設を始め、警察・保健
所・地域包括等に送付予定。
7. 12月3、4日 リーダー研修会進捗状況－講演
やグループワーク等の内容、時間決定。
8. 熊本県士会より地震に際するお礼状
9. OT協会より厚生労働省老健局「平成28年度介
護報酬改定検証・調査研究への協力依頼」の周
知について
10. 富山県在宅医療研修会－今年度は11月20日・
12月4日開催予定。
11. 訪問リハビリテーション研修会－29年2月11日
開催予定。研修案内は会員に送付。
12. 富山市長寿介護課で企画している各地域包括支
援センターでの認知症介護教室への参画－「認
知症の介護について作業療法士ができること」
の資料作成中。

〈検討事項〉

1. 学会等での託児所の設置について－OT協会では
全国学会等では設置の方向だが、県士会とし
ては県レベルの学会等では設置せず、一時預か
り等の資源の利用をすすめる。
2. 全体会に向けて各事業のあり方－福利厚生事業
に関しては、早めに年間予定を会員に知らせる
ことができるように調整。新人会員が総会時に
各部会内の顔合わせができるよう、部会への振
り分けを早い時期にする

Toyama

Prosthetics & Orthotics Service

<http://www.tpo-morita.com>



【営業品目】

義手・義足・補装具等 製作修理

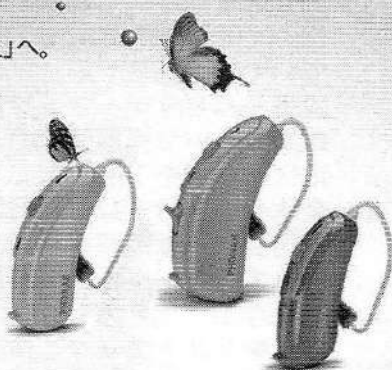
オーダーメイド靴 製作

車椅子・スローマ・補聴器

福祉用具貸与販売

Phonak Audéo V

また一步、自然体の「聞こえ」へ。



(株) 富山県義肢製作所 富山県補聴器センター

〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16

TEL (076) 425-4279

FAX (076) 425-4587

E-mail t-gishi@cronos.ocn.ne.jp

介護保険対応! ベッド・車椅子・レンタル!

車椅子
➡ 480円より
ベッド
➡ 700円より



株式会社 **ウィル**

TEL (0766) **56-7099**

FAX 56-3395



手芸・毛糸の店

- | | |
|---------|-----------|
| ○手芸糸 | ハマナカ |
| ○刺し子 | オリムパス、ナスカ |
| ○ビーズ手芸 | トーホー、ミユキ |
| ○マクラメ糸 | ダルマ、川端 |
| ○ちりめん手芸 | 東芸 |
| ○その他 | S.M、M.B他 |
- 各手芸材料取り扱いしています。



ボタン・手芸・毛糸



スギマサ

〒930-0083 富山市総曲輪3丁目7-9

TEL (076) 421-3444

FAX (076) 421-4334

3. 協会50周年映像DVDの活用－全体会や総会など、会員が集まる時にDVDを流す予定。
4. 富山県精神保健福祉家族連合会より「精神障害者の県単独医療費助成制度の適用に関する要望書」提供依頼
他団体の対応を聞いて検討→提出に賛成の返答。
5. 介護保険関連の加算についての調査－調査用紙修正し、11月末に各施設作業療法士代表者に送付。

平成28年度 第8回理事会

場 所：富山医療福祉専門学校

日 時：平成28年12月5日(月) 19:00～

参加者：田村・小倉・島津・作田・斎藤・谷口
松本・吉波・桐山・古澤・高林

〈報告事項〉

1. 精神障害者の県単独医療費助成制度の適用に関する要望書提出
2. 11月26、27日東海北陸作業療学会－石川県金沢市 地場産業振興センター
県士会として風船バレーボール大会、特別支援教育での実践に関する情報交換会参加、参加者－1100名
3. 12月3、4日東海北陸リーダー研修会－サンシップとやまー講演「リーダーに必要な事」、グループディスカッションが行われる。内容は良かったが、講師との事前打ち合わせの時間がとれず、ディスカッションの時間が押し気味になった。
4. 12月3日MTDLP事例検討会－谷川先生ファシリテーターとして参加。平成30年度の改正に向けての話もされた。発表：3グループ、計12例。1グループ8～9名程度で構成。精神・発達分野の発表もあった。
5. 県学会進捗状況－現在、7演題登録、2次募集中。締め切り12月20日。教育部の事例検討会及びMTDLP事例検討会の症例で発表できないかあたっている。県外からの演題登録があり、発表者は県士会員と定められているので、所属士会を確認の上、対応する。市民公開講座チラシ2,500部作成、年内に配布。
6. MTDLP委員会－基礎研修を終えた人は多数いるが、事例検討を終えた人はまだ一部。来年度より南砺市民病院が奇数月、富山県リハビリテーション病院が偶数月に事例検討会を実施し、各部会を12ヶ月に割り振って、毎月2回の事例検討会を定期的に実施したい。1事例45分必要。今年度中に事例発表まですれば、生活行為向上加算の算定要件を満たす。協会の認定は来年度へも継続し、今年度の基礎研修は無効にならない。現在、ファシリテーターは、事例発表までした人は誰でもできるが、4月から資格要件は変わる見通し。
7. 11月19、20日認知症作業療法推進委員会会議－齋藤理事参加 協会より「認知症最新知識の習得とどの領域でも期待される役割にこたえられる作業療法士を養成する」ことを目的に研修会（初級：基礎研修、中級：事例検討研修、上級：実践研修・検討）を実施していくことを、各士会に委託される。今年度・次年度中に基礎研修（アップデート研修）を広く会員に向けて行っていく方法について検討。

8. 11月13日日本作業療法士協会にて災害ボランティア研修会－高林理事参加 各地の活動報告、グループワーク「災害に備えて、平時から何を準備するべきか」が行われた。

〈検討事項〉

1. 29年度事業計画
 - ・学術部の研修会のテーマ、日程はできる限り全体会までに詰めておく。
 - ・調査部への調査依頼は理事会でも検討するが、調査部内でも検討してもらいたい。
 - ・県士会懇親会の参加者が少ない事への対応策を出す。早めに日程を決めてお知らせし、役員からも周囲のOTや若い人に声を掛けていくよう心掛ける。
 - ・MTDLP事例検討会を各部会の事業計画に入れてもらい、全体会で開催月を決める。
 - ・認知症アップデート研修会－昨年度行った認知症研修会の基礎編を読み替えて、不足しているBPSDの研修1コマを追加受講してもらうことで、アップデート研修終了とし、受講料1日研修2,000円、BPSDの研修1コマ500円で検討していく。
 - ・災害リハビリテーション委員会－災害時の連絡体制について模擬訓練できるようにする。
 - ・地区別会議を1回開催できるようにする。
2. 全体会の進行－12月14日(水)19時～谷野呉山病院－司会進行は島津事務局長。理事は18時半に集合して準備。主題は事業計画の検討。
3. 次期県学会－来年度は高岡地区の予定。学会長候補者をリストアップし検討していく。

賛助会員名簿

(順不同)

会 員 名 (代表者)	住 所
温泉リハビリテーション いま泉病院 (理事長 大西仙泰)	〒939-8075 富山市今泉220 TEL 076-425-1166
(株)ウ イ ル (代表取締役 黒田 勉)	〒939-0311 射水市黒河3075 TEL 0766-56-7099
富山医療福祉専門学校 (学校長 辻 政彦)	〒936-0023 滑川市柳原149-9 TEL 076-476-0001
(有)スギマサ洋装店 (代表取締役 杉政正規)	〒930-0083 富山市総曲輪3丁目7-9 TEL 076-421-3444
学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 (理事長 加藤 真一)	924-8511 石川県白山市笠間町1200 TEL 076-276-4400(代)

編集後記

2017年がスタートしました。

去年は富山へ引越し、新しい職場での仕事が始まる等、個人的にはとてもバタバタした1年でした。今年は仕事も勿論、趣味のカメラや水槽にも力を注げる1年にしたいと目標を立てています。皆様は今年の目標は決めましたか？

T.K